



越前三大川沿革図 日野川之図 部分 明治初年 松平文庫 松平宗紀氏所蔵 福井県立図書館保管



石川縣下鯖江驛、谷間
白鬼女川架橋之圖

白鬼女橋架橋の図 1878年(明治11) 宮内庁書陵部蔵

日野川 (武生・鯖江付近)

両岸に連続する堤防を見慣れた私たちには、黒の太い線で描かれた短くて方向の違う様々な形の堤防は、馴染みがない。しかし子細に見れば、流れの屈曲部や、支流合流部などの要所には必ず堤防が築かれており、また小黒町村(図左上)付近に典型的に見られる「く」の字形の霞堤(洪水を緩やかに田畑に導く短い堤防)は他にも見られ、随所に暴れ川に対処する工夫が凝らされているのを読み取ることができる。

北陸街道の府中(武生)と鯖江の間、日野川の白鬼女の渡しに橋が架けられたのは一八七三年(明治六)のことである(図左中央)。写真の橋は七八年の『明治天皇北陸巡幸誌』に「白鬼女川ノ釣橋ハ遠望尤奇ナリ」とある釣橋で、写真説明には「架橋之図」とあり、また工事用の橋桁が見られることから、この巡幸にあわせて架け替えた際のものと思われる。この橋は民間の出資による有料の橋であったが、釣橋が採用されたのは、洪水時に流れを妨げ、また橋そのものを流失させる危険を避けるためであったと考えられる。